

令和4年度（令和3年度実績）

教育委員会自己点検・評価報告書

『地域に誇りを持ち 自分たちの未来を創る 人づくり』
～ 一人ひとりが未来の創り手に ～

令和4年7月

丹波市教育委員会

目 次

I はじめに

- 1 制度の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 点検・評価の具体的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 5 学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

II 教育委員会点検・評価結果（令和3年度実績）

- 1 教育委員会点検・評価シート（評価の状況）・・・・・・ 5
- 2 外部評価者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 教育委員会点検・評価シート（具体的施策毎）・・・・・・ 7

III 参考資料

- 1 教育委員会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 2 教育委員会の開催状況（令和3年度実績）・・・・・・ 47

I はじめに

1 制度の趣旨

教育委員会が所管する事務事業については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）により、管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することが定められています。

また、その報告書については、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

つきましては、法に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様へ広く伝えるため、令和3年度の施策について、「教育委員会自己点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の目的

点検・評価は、令和3年度「丹波市の教育（実施計画）」に掲げた20の施策について実施しました。

目標（あるべき姿）、実績、取組の評価、今後の取組・改善策等の順に記載し、PDCAにより繰り返すことで事業を継続的に改善します。

また、第三者の専門的な視点で問題提起を促し、より効果的な施策となるよう外部評価者によるヒアリングを実施しています。

丹波市の教育行政が充実し、未来を担う子どもたちが必要な力を培うことができるよう、事業の成果を検証、精査し次年度の施策につなげてまいります。

3 点検・評価の対象

教育委員会点検・評価シート一覧

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

- (1) 次世代を生きぬく学力の育成（学校教育課）・・・・・・・・・・ 7
- (2) 豊かなこころの育成（学校教育課）・・・・・・・・・・ 9
- (3) 健やかな体の育成（学校教育課）・・・・・・・・・・ 11
- (4) 丹波市のフィールドを活かした教育の推進（学校教育課）・・・・ 13
- (5) 幼児教育・保育の推進（学校教育課）・・・・・・・・・・ 15
- (6) 一人ひとりのニーズに応じた教育の推進（学校教育課）・・・・ 17
- (7) 人権教育の推進（学校教育課）・・・・・・・・・・ 19

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

- (1) 家庭教育の充実（社会教育・文化財課）・・・・・・・・・・ 21
- (2) 地域の将来を担う人づくり（市民活動課、文化・スポーツ課）・・ 23
- (3) 学びの成果を活かせる社会教育（市民活動課）・・・・・・・・・・ 25
- (4) 文化芸術に親しむこころ豊かな市民生活の醸成
（植野記念美術館、文化・スポーツ課）・・・・・・・・ 27
- (5) 暮らしにとけこむ図書館づくり（中央図書館）・・・・・・・・・・ 29
- (6) 歴史文化遺産の保存・活用と継承（社会教育・文化財課）・・・・ 31
- (7) 豊かな人権文化を創造する人権教育（人権啓発センター）・・・・ 33

III 学びを支える環境の整備

- (1) 地域とともにある学校づくりの推進
（学校教育課、社会教育・文化財課）・・・・・・・・ 35
- (2) 教職員の資質・能力及び学校の組織力の向上（学校教育課）・・・・ 37
- (3) 学校給食の充実（教育総務課）・・・・・・・・・・ 39
- (4) 安全・安心な学習環境の整備・充実
（教育総務課・学校教育課）・・・・・・・・・・ 41
- (5) 学校の適正規模・適正配置（教育総務課）・・・・・・・・・・ 43
- (6) 教育委員会活動の活性化（教育総務課）・・・・・・・・・・ 45

4 点検・評価の具体的な方法

基準		評価判定
満足のいく成果が得られたもの	(適切、十分、75%以上)	A
ほぼ満足のいく成果が得られたもの	(概ね適切、概ね十分、50%以上)	B
満足のいく成果が得られなかったもの	(やや不適切、やや不十分、50%未満)	C
取組を見直す必要がある	(不適切、不十分、達成度不明瞭)	D

5 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方の意見・提言等をいただきました。

安藤福光 氏（兵庫教育大学大学院 准教授）

【外部評価者ヒアリング日程】

令和4年6月14日

令和4年6月28日

Ⅱ 教育委員会点検・評価結果（令和3年度実績）

1 教育委員会点検・評価シート

教育委員会の事業（P 7～P 46）

〔評価の状況〕

Ⅰ 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

施策名	自己評価	外部評価	所管課
(1) 次世代を生きぬく学力の育成	B	B	学校教育課
(2) 豊かなこころの育成	B	B	学校教育課
(3) 健やかな体の育成	B	A	学校教育課
(4) 丹波市のフィールドを活かした教育の推進	B	A	学校教育課
(5) 幼児教育・保育の推進	B	B	学校教育課
(6) 一人ひとりのニーズに応じた教育の推進	B	A	学校教育課
(7) 人権教育の推進	A	B	学校教育課

Ⅱ 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

施策名	自己評価	外部評価	所管課
(1) 家庭教育の充実	B	A	社会教育・文化財課
(2) 地域の将来を担う人づくり	B	B	市民活動課 文化・スポーツ課
(3) 学びの成果を活かせる社会教育	A	A	市民活動課
(4) 文化芸術に親しむこころ豊かな市民生活の醸成	B	A	植野記念美術館 文化・スポーツ課
(5) 暮らしにとけこむ図書館づくり	A	A	中央図書館
(6) 歴史文化遺産の保存・活用と継承	A	A	社会教育・文化財課
(7) 豊かな人権文化を創造する人権教育	B	B	人権啓発センター

Ⅲ 学びを支える環境の整備

施策名	自己評価	外部評価	所管課
(1) 地域とともにある学校づくりの推進	B	B	学校教育課 社会教育・文化財課
(2) 教職員の資質・能力及び学校の組織力の向上	A	A	学校教育課
(3) 学校給食の充実	A	A	教育総務課
(4) 安全・安心な学習環境の整備・充実	B	B	教育総務課 学校教育課
(5) 学校の適正規模・適正配置	A	A	教育総務課
(6) 教育委員会活動の活性化	A	A	教育総務課

〔自己評価〕

- ・ A評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 8事業／20事業
- ・ B評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 12事業／20事業

〔外部評価〕

- ・ A評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 12事業／20事業
- ・ B評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 8事業／20事業

2 外部評価者の意見

【全 体】

令和3年度もコロナ禍に左右された1年であったと振り返る。その中で、教育行政は施策の構想、実施（中止等の変更を含む）、そして評価をせねばならず、これまでとは行政のすすめ方に大きな変化があったとうかがえる。

そのような中、丹波市の教育行政において高く評価できることは、数々の施策を展開し、家庭、学校、社会という市内の教育全体の営みを充実化させることによって、人生を豊かに生きることのできる市民を育てようとしている点にある。その証左に、『丹波市の教育 実施計画』を読めば、様々な研修会の実施、多様な企画の実施、アプリ・YouTube・LINEなどのICTの積極的な活用と積極的な情報発信、地域諸団体との連携など、展開された施策には枚挙に暇がない。数々の制約が予想された中で、可能な限りの施策を展開するために試行錯誤が繰り返されたと推察するが、教育行政のこのような取り組み姿勢は、今後ともぜひ継続してほしい。

今後の課題として、2つ指摘しておきたい。一つは指標の項目である。たとえば1-(2)において「情報モラルに関する授業を受けた児童（生徒）の割合」が指標に挙げられているが、果たして「授業を受けた」だけで目標の達成指標として相応かどうかは再考の余地がある。あわせて、指標に関係する質問紙調査の設問内容の一部に変更が加えられていた。その結果、経年比較が困難となった指標がある。長期的な教育の成果を検証する場合、よほどのことがない限り、設問内容の変更は極力避けた方が良く考える。これらは令和7年度以降の計画において、要検討事項となるだろう。

もう一つは先にも触れたようにコロナ禍での対応を余儀なくされた施策が散見された。当初の予定通りにすすめることができなかった場合、当初の目標値を掲げたままで良いのかどうかについて、今一度の吟味が必要ではないだろうか。

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(1) 次世代を生きぬく学力の育成

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○未知の課題に対応する力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進します。</p> <p>○児童生徒が、自分の力で主体的に学習をすすめることができる力の育成に取り組みます。</p> <p>○学び続ける力を養うため、すべての学習の基盤となる情報活用能力の育成に取り組みます。</p> <p>○英語力を伸ばしていこうとする意欲を高め、コミュニケーションを図ろうとする資質・能力の育成に取り組みます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 20	丹波市研究指定校説明会・事業について各校交流
	R3. 4 月～ R4. 2 月	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内研修会 (指導主事講師派遣：15校、39回)
	R3. 5. 21	学力向上推進会議
	R3. 5 月	各校「学力向上具現化プラン」の作成
	R3. 5 月～	ネット de イングリッシュ (実施：17校 25回)
	R3. 5. 27	全国学力学習状況調査
	R3. 6. 1	GIGA スクールリーダー育成研修会 (タブレットドリル活用研修)
	R3. 7 月～8 月	ICT 支援員による夏季 ICT 研修会 (15回) (SKYMENU、Google workspace、スクールライフノート、タブレットドリル)
	R3. 8 月～10 月	全国学力・学習状況調査結果の分析 (調査結果における成果と課題の検証・授業改善につなげる)
	R3. 10. 8	英語検定チャレンジ事業
	R3. 12. 14	丹波市学習定着度調査 (小3～中2)
	R4. 1 月～2 月	丹波市学習定着度調査結果分析 (成果と課題の検証)
R4. 2. 8	学力向上推進会議	

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童の割合 (小6)	76.3%	79.9%	78.0%	81.3%
授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた生徒の割合 (中3)	71.6%	81.8%	83.5%	81.6%
プログラミング教育を指導できる教員の割合 (小学校)	15.1%	56.3%	66.0%	100%
英語検定3級相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (中学校)	37.4%	45.8%	35.9%	50.0%

取組の評価	<p>○学力向上推進会議において、「自走する子どもをはぐくむために大切にしなければならないこと」の協議を基に、各校で計画的に児童生徒が主体的に参加する授業改善の推進を図りました。</p> <p>○市教委主催研修では、オンラインを積極的に活用するとともに Google jamboard などによりグループ協議を行うことで教職員の ICT 活用力を高めました。</p> <p>○ICT 支援員による学校訪問・授業支援やオンラインによる活用研修を行い、児童生徒や教職員の 1 人 1 台タブレット端末の日常的活用力向上に向けた育成を図りました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業を想定し、児童生徒とつながり、学びを止めない教育活動を継続するため 1 人 1 台タブレットを活用し、オンライン授業を実施できる体制づくりを図りました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○ネット de イングリッシュを 1 学期に 3 校 4 クラスで実施し、コミュニケーション能力を身につける取組となりました。</p> <p>○「英語検定チャレンジ事業」では、全中学 3 年生の 91%にあたる 496 名が受検し、167 名が 3 級以上を取得しました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をより一層推進するため、令和 4 年度は「授業改善推進会議」を開催します。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、指導主事訪問並びに指導主事の校内研修派遣を行い、「児童生徒の力を伸ばす授業づくりのために（教職員用リーフレット）」の活用を推進し、児童生徒の実態に応じた指導助言を行います。</p> <p>○定期的な ICT 活用状況調査を行い、各校の活用状況を把握するとともに、GIGA スクール構想推進リーダー育成研修や校内研修で、引き続き教職員自身が ICT 端末の活用主体性と継続性をもって取り組める体制づくりや、臨時休業なども見据えたタブレット端末の活用推進を図ります。</p> <p>○「英語検定チャレンジ事業」を継続して実施し、英語力やチャレンジ精神の向上に取り組みます。ALT の来日状況が改善し、全中学校に配置できたことにより、ネイティブの発音に触れる機会を増やし英語でのやり取りによる会話を重視した授業改善に取り組みます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>「主体的、対話的で深い学び」について、指導主事の派遣による校内研修が 15 校で 39 回実施された。この学びを充実させようとする教育委員会事務局の積極的な姿勢を見て取ることができ、また児童生徒にも良い影響を与えていると推察する。一方で、英語学習や ICT 教育については、次年度の充実改善が望まれる。</p>	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center;">B</p>
--	--

☆評価判定 ☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(2) 豊かなこころの育成

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒同士の心のつながりを深め、誰もが安心して学ぶことができる居場所づくりをすすめます。</p> <p>○学校・家庭・地域が一体となったいじめ・暴力ゼロ市民運動をすすめるとともに、児童生徒がいじめを許さない強い気持ちを持ち、主体的に解決しようとする態度をはぐくみます。</p> <p>○コロナ禍にあることを踏まえ、児童生徒の悩みや不安をいち早く察知し、児童生徒の心に寄り添った適切な指導が行えるようにするとともに、児童生徒や保護者、教職員などが多様な教育課題について気軽に相談できる、相談・支援体制を充実させます。</p> <p>○児童生徒が他者や自分自身との「対話」を通して物事を多面的・多角的に捉え、自分自身の考えを深められるような道徳の授業づくりに努めます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4月～	スクールカウンセラーの全中学校及び小学校3校配置、スクールソーシャルワーカーの全中学校配置
	R3. 5月～6月	いじめ報告相談アプリ「STOPit」の活用に向けた「いじめの脱傍観者授業」の実施（各中学校1年生対象）
	R3. 6月～	いじめ・暴力防止ポスター・標語の募集
	R3. 6月、7月	いじめ・暴力防止市民フォーラム実行委員会（計3回）
	R3. 7月～	スクールライフノートの導入
	R3. 7. 2	学級経営研修会
	R3. 8. 25	道徳の授業スキルアップ支援プログラム
	R3. 9. 24	いじめ暴力・防止メッセージ検討委員会
	R3. 10月～	いじめ暴力・防止メッセージ運動
	R3. 10月	丹波市版「子どものネット利用に関する家庭ルールブック」の改訂・配付
	月1回	レインボー連絡会
	年3回	児童生徒のいじめに係る実態調査（6月、11月、2月）
	随時	豊かな心をはぐくむ講演会（各校）

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
いじめのあったときに「誰にも相談しない」と回答する児童生徒の割合(1年間の平均値)	6.0%	6.1%	5.7%	3.0%未満
情報モラルに関する授業を受けた児童の割合（小学校）	91.5%	97.4%	77.9%	100%
情報モラルに関する授業を受けた生徒の割合（中学校）	97.3%	96.8%	92.0%	100%

取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生を対象としたいじめ報告・相談アプリ「STOPit」では、1人1台端末からもアクセスできるよう、「いじめの脱傍観者授業」実施時に併せて設定することで、710名が登録しました。 ○学級経営研修会では、コロナ禍において、いじめを起こさせない学級経営、児童生徒の心的ストレスへの対応や的確なアセスメントについて学ぶことができました。 ○いじめ・暴力防止市民フォーラム実行委員会を3回実施し、児童生徒が主体となっていじめ・暴力をなくそうとする意識を醸成するためのフォーラム内容を協議することができました。新型コロナウイルス感染拡大防止により市民フォーラムは中止としましたが、いじめ・暴力防止メッセージ運動を行い、全小・中学校での取組を共有することができました。 ○スクールライフノートの導入により、児童生徒の心の様子を日常的に把握し、心に寄り添った児童生徒支援を行うことができました。
自己評価判定	○教育支援センター「レインボー」の条例設置に伴い、週2回、指導主事が常駐し、いじめ・不登校対策などの方策をセンター職員とともに検討することができました。
B	○情報モラルに関する授業を受けた児童生徒の割合が下がった理由として、調査内容を一新し、情報モラルについて広く問う設問内容に変わったためであると考えられます。

今後の取組・改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・暴力防止フォーラムを、オンラインなども活用して市民を巻き込んだ開催となるように工夫するとともに、保護者・地域の方のいじめについての理解を深めるためのいじめ防止リーフレットを作成します。 ○スクールライフノートの効果的な活用を推進し、コロナ禍における児童生徒の心の様子を日常的に把握する取組をすすめます。 ○学校と家庭が連携した情報モラル教育を推進していくために、丹波市PTA連合会と連携し、各家庭での課題などを踏まえた情報モラル研修会を実施します。 ○情報モラルに関する授業の充実に向けて、教職員への研修の中で周知・啓発を図ります。 ○自己肯定感や自己有用感など、児童生徒のこころの育成の変容がはかれる取組や指標について検討します。
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>「STOPit」や「スクールライフノート」の導入など、いじめへの対応、児童生徒の心の様子の把握、情報モラルの醸成に取り組んでおり、この点は評価できる。ただし、情報モラルについては、設問内容を一新したことにより、経年変化による影響の確認が困難であるため、次年度以降の検証を求める。</p>	<p style="text-align: center;">評価判定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
--	--

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明瞭

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(3) 健やかな体の育成

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○運動への興味・関心を高めることができるよう運動に慣れ親しむ機会の充実を図り、主体的に運動しようとする意欲や態度を育成し、体力・運動能力の向上を図ります。</p> <p>○校内食育全体計画をもとに発達段階に応じた系統的な食育を実施するとともに、家庭や専門機関と連携し、健康課題や新型コロナウイルス感染防止対策に対応した取組を推進します。</p> <p>○丹波市豪雨災害の経験や教訓をつなぎ、自然災害から自らの命を守る適切な判断力や主体的に行動する態度を育成できるよう、丹波市防災教育教材を活用するとともに地域と連携した防災・安全教育の充実に取り組みます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3.4月～	各校の食育全体計画などの見直し
	R3.4月～	各校の安全・防災マニュアル・年間指導計画の見直し
	R3.4月～	丹波市防災教育教材及び動画教材を活用した防災教育の実施
	R3.4月～7月	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 兵庫県児童生徒体力・運動能力調査
	R3.6月～	体力アップサポーターを小学校14校に派遣
	R3.6.10	武庫川女子大学連携事業において中学校でトレーニング講座開催
	R3.7.26	武庫川女子大学連携事業において小学校で教職員研修会開催
	R3.9月～	武庫川女子大学連携事業において小学校で出前授業開催
	随時	学校への不審者及びクマの出没情報などの提供
	随時	新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に関する通知

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の基礎的運動要因8項目のうち、課題のある4項目において全国平均を上回る項目数	小学校男子0項目 小学校女子0項目 中学校男子1項目 中学校女子1項目	—	小学校男子2項目 小学校女子1項目 中学校男子2項目 中学校女子2項目	小学校男子4項目 小学校女子4項目 中学校男子4項目 中学校女子4項目
朝食を毎日食べる児童生徒の割合	93.4%	94.6%	95.2%	100%
地域と連携した防災訓練の実施率	90.0%	82.7%	93.1%	100%

取組の評価	<p>○運動への興味関心を高め体力向上や運動習慣の定着を図ることができるよう、各校のニーズを聞き取り、感染症に配慮しながら小学校14校へ体力アップサポーターを派遣することができました。</p> <p>○3年間の武庫川女子大学連携事業により作成した体づくり運動ハンドブック「子どもの運動神経を伸ばすための基礎トレーニング」を活用し、各小学校で体力づくりに取り組むことができました。</p> <p>○食に関する指導では、校内食育全体計画、年間計画や各学年の指導計画などの見直しを行うとともに、各校において工夫しながらコロナ禍における食育をすすめました。感染症防止については、国や県の動向を踏まえ、関係機関と連携しながら、健康で安全な学校生活の継続に向けて、適切な対応となるよう取り組みました。</p>
自己評価判定	○丹波市防災教育教材を活用し、豪雨災害の経験や教訓から学ぶ防災教育をすべての小・中学校ですすめました。自治会や市防災部局と連携した避難訓練を計画していた学校がコロナ禍での実施を見送るなど、地域との連携が難しい状況がありましたが、各校において防災登下校や講演会などに工夫して取り組みました。
B	

今後の取組・改善策等	<p>○体力アップサポーターの小学校への派遣を継続して行うとともに、基礎トレーニングのハンドブックを活用した体づくり運動をすすめ、児童生徒の体力向上を図ります。また、武庫川女子大学連携事業において、学生を活用した出前授業や各校における体育的取組の充実やその効果検証により、課題のある筋力、筋持久力、柔軟性を高める体づくり運動や体育的活動の研究に引き続き取り組みます。</p> <p>○栄養教諭を中心にすべての教職員が連携した食育を推進します。衛生管理や生活習慣については、コロナ禍における基本的な感染症防止対策を徹底するとともに、生活習慣や食に関する自己管理能力の向上を図ることができるよう、家庭や健康課などと連携を図ります。</p> <p>○災害時の対応や手順、学校防災体制の充実について、コロナ禍における取組をすすめていく必要があります。</p> <p>○市内中学生の事故を受け、PTA や地域と連携して危険箇所の点検や見守りをより一層強化するとともに、関係機関と協力して交通安全教室を実施するなど、生徒の安全教育を推進します。また、緊急時に有効に機能するよう危機管理マニュアルの見直し、避難訓練などを通して地域との連携をすすめます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>地域や大学との連携を通して、防災教育や健康教育を実施している点は大きい評価できるところである。項目によっては、その成果が現れつつあると看取できる。子どもたちの運動能力については、どのような能力に課題があるのかを明確にしたうえで、それに最適な方法による充実策を検討してほしい。</p>	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
--	--

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(4)丹波市のフィールドを活かした教育の推進

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○児童生徒が感じた地域の課題について、日頃学んだことをいかして課題解決を図り、コロナ禍においても実施方法を工夫することで、ふるさと丹波を愛する意識を醸成します。</p> <p>○氷上回廊水分れフィールドミュージアムに関して、ICT や副読本を活用し、地域の教育資源をいかした教育を推進します。</p> <p>○児童生徒一人ひとりが社会の一員としての自覚を持ち、将来を見据えて自らが主体的に判断し、目標に向かって努力する態度や能力を育成するため、キャリア教育を推進します。</p>

【主な取組】 令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4月～	各小学校で「たんばふるさと学」の実施
	R3. 4月～	教職員と市職員を交えたグループ協議を実施し、「丹波市のフィールドを活かした教育ガイド」を作成
	R3. 4月～	氷上回廊水分れフィールドミュージアム学習プログラムの実施
	R3. 4月～	丹波市版キャリアノート、兵庫県版キャリア・パスポートの活用
	R3. 4月～	各中学校でアントレプレナーシップ教育の実施
	R3. 6. 3	第1回丹波市中高連携協議会
	R3. 8. 5	第2回丹波市中高連携協議会
	R4. 2. 24	第3回丹波市中高連携協議会

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
地域や社会で起こっている出来事に興味がある児童生徒の割合	60.7%	71.9%	45.9%	70.7%
キャリアノートを活用するとともに、地域貢献活動を実施した小学校の割合	—	95.5%	100%	100%

取組の評価	<p>○地域や社会で起こっている出来事に関心がある児童生徒の割合は、質問項目を「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に変更したことにより減少しましたが、コロナ禍においても各校で実施方法を工夫し、地域人材や地域教材を活用した「たんばふるさと学」を計画的に実施できました。「丹波市のフィールドを活かした教育ガイド」作成に向けて、教育研究室で協議し、各小学校区の地域教材を収集し、編集をすすめることができました。</p> <p>○地域の教育資源をいかした教育の推進を図るため、氷上回廊水分れフィールドミュージアム学習プログラムを作成しました。</p> <p>○丹波市中高連携協議会において、これまでの進路カレンダー作成や授業交流会などの協議に加え、アントレプレナーシップ教育を中心とした中高連携の取組について、令和4年度からの実施に向けて協議をすすめることができました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○令和3年度より市内全中学校で実施しているアントレプレナーシップ教育では、各校で工夫し、トライやる・ウィークと関連づけるなど、地域人材を活用した取組を推進しました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○コロナ禍においても引き続き、学校支援コーディネーターを中心に地域人材の学習や生活への積極的な支援を推進し、子どもたちのふるさと丹波を愛する意識の醸成を図るとともに、地域や社会の課題について日頃学んだことをいかして、課題認識だけでとどまることなく、課題解決に取り組める児童生徒の育成を図ります。</p> <p>○氷上回廊水分れフィールドミュージアム学習プログラムの更なる活用に向けて、学校に周知したり、「丹波市のフィールドを活かした教育ガイド」による丹波市の地域教材を活用した学習活動を展開したりして、児童生徒のふるさと意識の醸成を図ります。</p> <p>○アントレプレナーシップ教育を中心とした中高連携事業に向け、相互のキャリア形成並びに課題に向かって努力する態度や能力の育成が図れるよう丹波市中高連携協議会を通じて協議をすすめます。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

教育ガイドや水分れ回廊プログラムの作成など、ふるさと学習のための教材作成に精力的に取り組んでいる点、丹波市内の高等学校との中高連携によるキャリア教育の推進など、地域資源をいかす教育の推進に積極的に取り組んでいる。成果指標の一部については、設問内容の変更により、評価は難しい。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(5) 幼児教育・保育の推進

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、子ども主体の保育や一人ひとりの育ちを捉えた保育を推進するため、保育者の専門性や指導力の向上を図るとともに、リーダー的職員の育成を支援します。</p> <p>○指導主事や教育相談員による訪問指導により、保育カンファレンスを通して指導方法の工夫・改善を図る研修の充実に取り組みます。</p> <p>○認定こども園と小学校の教育内容や指導方法の違いについて理解を深めるとともに、学びの連続性を重視した指導計画やアプローチプログラムの作成により、幼児期と児童期の学びの円滑な接続を推進します。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 7. 5	第1回幼児教育研修会
	R3. 8. 23～27	保育士等キャリアアップ研修（乳児保育、障害児保育）
	R3. 8. 30～9. 3	保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援、マネジメント）
	R3. 10. 14	公開保育研修会（認定こども園ミライズにじ）
	R3. 10. 22	第2回幼児教育研修会
	R3. 10. 27	公開保育研修会（認定こども園ぬぬぎ）
	R3. 11. 5	公開保育研修会（認定こども園かすが森の子園）
	R3. 11. 12	第3回幼児教育研修会
	R3. 11. 26	第4回幼児教育研修会
	R3. 12. 10	第5回幼児教育研修会
	随時	子育て支援課との連絡会
	随時	園内研修への指導主事派遣（28回）
	随時	園内研修への教育相談員派遣（11回）

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
研修で学んだことを活かして保育の工夫・改善を行うことができたと答えた保育教諭の割合	—	89.0%	83.0%	100%
認定こども園のアプローチプログラムの作成	1園	4園	6園	13園

取組の評価	<p>○コロナ禍における感染防止対策を図りながら、湊川短期大学と連携した保育士等キャリアアップ研修（4分野）を実施し、延べ76名が各専門分野について学ぶことができました。保育者、調理員、事務員など、各職種のキャリアステージに応じた職員の育成につながりました。</p> <p>○公開保育研修会や幼児教育研修会では、参加者が協議を通して多様な保育観に触れるとともに、子どもの姿を捉える視点を磨き、幼児理解を深めることができました。また、保育実践を通じた研修は、具体的な保育の工夫やスキルを学ぶ貴重な機会となりました。</p> <p>○園内研修に指導主事を28回派遣し、保育カンファレンスにより参加者が気づき、学び合うことができるよう支援しました。また、教育支援センター教育相談員を11回派遣し、支援を要する園児一人ひとりに応じた保育の工夫に取り組みました。</p> <p>○コロナ禍において園児と児童の交流活動や相互参観の機会は少なくなりましたが、巡回相談や園小連絡会、校園長会などを通して教育への相互理解を図るとともに、個々の育ちや支援が引き継がれるよう取り組みました。また、アプローチプログラムの作成を推進し、教育課程に位置づけることによる組織的な接続を図りました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○こども園の課題やニーズに対応するため、子育て支援課との連絡会や保育協会との情報共有など、連携体制を整えて取り組みました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○若手保育者やリーダー的職員の育成に向け、効果的な研修の工夫を図ります。公開保育研修の継続により、保育実践から学ぶことを通じて保育者の専門性や指導力の向上に取り組みます。</p> <p>○子どもの理解と評価に基づく保育の語り合いが保育の工夫につながるよう、指導主事や教育相談員の派遣を継続し、園内研修を支援します。</p> <p>○幼児期と児童期の学びの円滑な接続に向け、カリキュラムマネジメントの理解やアプローチプログラムの作成について、引き続き推進します。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

園内研修への指導主事の派遣および教育相談員の派遣、園小連携充実のためのアプローチプログラムの作成など、保育の質向上に資する取組となっており、大いに評価できる。他方、スタートカリキュラム（小学校入学後）についても、園小連携における一方の要であり、今後の充実を期してほしい。	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center;">B</p>
---	--

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

I 生き方をはぐくむ学校教育の推進

(6)一人ひとりのニーズに応じた教育の推進

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○児童生徒の教育的ニーズに気づき、就学前から卒業後も切れ目なく支援を受けることができるよう、支え、つなぐ支援体制の整備充実を図ります。</p> <p>○コロナ禍において、すべての児童生徒を「信頼し、任せて、支える」学びの充実を図るため個別最適化された学びに向け、全教職員を対象とした研修を実施します。</p> <p>○不登校など、教育的支援が必要な児童生徒に寄り添い、個に応じた適切な指導や支援を行うために、丹波市立教育支援センター「レインボー」における相談活動・関係機関との連携を充実させることで、誰一人取り残すことのない支援体制を整えます。</p> <p>○不登校などの支援が必要な児童生徒に対して、教育的ニーズに応じた支援が行えるよう学びを止めない学習環境を充実させます。</p>

【主な取組】

令和3年度の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 2	特別支援教育支援員・介助員・看護介助員研修会
	R3. 4. 15	特別支援にかかる教育相談
	R3. 4. 27	第1回特別支援教育の各種申請書類にかかる説明会
	R3. 4月～R4. 3月	通級による指導にかかる連絡会（10回）
	R3. 7. 5	第1回教育支援委員会
	R3. 8. 27	特別支援教育セミナー
	R3. 9月～10月	令和4年度特別支援学級入級にかかる教育支援委員会学校園訪問
	R3. 11. 12	第2回教育支援委員会
	R3. 11. 24	丹波地区小・中学校通級による指導実践交流会
	R3. 11月～R4. 1月	令和4年度通級指導にかかる学校園訪問
	R4. 2. 3	授業のユニバーサルデザイン化研修事業研究発表会（柏原中）
	R4. 3. 4	第2回特別支援教育の各種申請書類にかかる説明会

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
「学校の教員は、特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫をよく行った」と答えた学校の割合（小・中の平均）	65.3%	62.1%	65.3%	80%
適応指導教室で、ICTを活用して個別学習を実施した学校の割合	—	85.0%	100%	100%
「多文化交流 Day」に参加した児童生徒の交流に関する満足度	—	中止	中止	80%

取組の評価	<p>○健康課と連携した特別支援にかかる教育相談では、就学予定園児の保護者と面談し、就学についての不安や悩みに寄り添い、安心につながるように支援することができました。</p> <p>○特別支援教育の各種申請書類にかかる説明会では、特別支援学級や通級による指導について、丹波市の現状や特別支援コーディネーターの役割を伝え、適切な就学支援につなげることができました。</p> <p>○特別支援教育セミナーでは木村泰子氏によるオンライン講演会を実施し、認定こども園、小・中学校から129名が参加してインクルーシブ教育について理解を深めることができました。</p>
自己評価判定	○毎月、「不登校及び未然防止のための個別票」と「不登校児童生徒の実態把握表」を集約し、学校と教育支援センターが連携した支援を図りました。しかし、これまでの課題に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予測困難な社会情勢や生活リズムが整えにくい家庭環境の変化などが要因で不登校児童生徒が増加しました。
B	

今後の取組・改善策等	<p>○教育支援センター充実事業として、多様な児童生徒のニーズに対応し、心理支援体制を強化するため、臨床心理士を配置します。</p> <p>○丹波市特別支援連携協議会を開催し、福祉、就労について各種機関と情報共有を図り、切れ目のない支援に取り組みます。</p> <p>○丹波地区小中学校通級による指導の実践交流会を実施し、指導の充実を図ります。</p> <p>○1人1台タブレット端末を活用し、オンラインで学校とつながったり、教育支援センターに導入している学習支援アプリを活用したりした学習環境の充実を図ります。</p> <p>○心のケアが必要な児童生徒一人ひとりに寄り添った支援体制をさらに充実させます。</p> <p>○教育支援センターからの学校訪問の機会を増やすなど、学校と連携した取組を実施し、未然防止、早期発見、早期対応に向けた相談活動や関係機関との連携をさらに充実させます。</p> <p>○増加する不登校生へ対応するために、「いじめ報告・相談アプリSTANDBY」を活用するとともに、個に応じた指導体制の整備や不登校担当者会における今後求められる不登校対応についての研修をすすめます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

特別支援教育や不登校児童生徒に対して、研修会や相談会など、数多くの取組が行われており、その一部は成果として看取できるところがある。とりわけ不登校児童生徒への対応については、ICTによる対応が十分に図られていることがうかがえ、今後も継続して行われることが期待される。	評価判定
	A

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明

I 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

(7) 人権教育の推進

担当課	学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○新型コロナウイルス感染症に係る不当な偏見や差別、いじめなどの人権侵害について、発達段階に応じた指導を行い、児童生徒が正しく理解し、適切に行動できるよう学習に取り組みます。</p> <p>○同和教育を人権教育の重要な柱ととらえ、人権に関する知的理解や人権感覚の涵養を基に、自他の人権を守り、尊重しようとする意欲や態度をはぐくみます。また、教育活動全体を通して、児童生徒が主体となり人権課題を解決しようとする実践的な行動力の育成に取り組みます。</p> <p>○共生社会の実現に向けて、ドメスティック・バイオレンス (DV)、性的マイノリティなどの人権にかかわる課題に対する認知を広げ、理解につなげることにより、男女の平等や相互理解・協力・共同を基盤に、自らの生き方を考え、互いの個性や能力を認め合う教育をめざします。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 6月～ R4. 2月	丹波市地域別小学校人権交流会 各地域及び各校で（オンライン活用含）実施
	R3. 8. 6	地域人権教育事業による中学校人権学習交流会
	R3. 8. 24	丹波市人権教育研修会（教職経験3年以内の教員対象にオンラインで実施）
	R4. 2月	デートDVに関する調査（各中学校）
	随時	新型コロナウイルス感染症の感染者などに対する差別や偏見の防止について周知

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う児童生徒の割合	97.7%	95.9%	97.6%	100%
中学校3年間で、デートDVの授業により、学習した生徒の割合（中学3年生）	未測定	—	66.3%	100%

取組の評価	<p>○各地域において新型コロナウイルス感染症対策に対応した交流会の方法や内容を検討し、オンラインを活用した意見交流を行ったり、事後に感想を共有したりするなど、工夫した取組をすすめることができました。</p> <p>○人権教育研修会はオンライン開催となりましたが、市内で同和教育に熱心に取り組まれた講師による講義や、実践豊富な先輩として市内教職員8名をアドバイザーとしたグループ協議を行いました。若手教員が自身の不安や疑問、課題などを出し合い、人権教育への学びを深める機会となりました。</p> <p>○授業によるデートDVの学習については、令和元年度からの新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業のため、授業時間が確保できなかった学校もありましたが、講演会による学習は積極的に取り組んでおり、男女共同参画社会の実現に向けた人権教育資料やDV防止啓発パンフレット、関連ホームページなど今後の授業に活用できるよう資料の周知を行いました。</p>
自己評価判定	
A	

今後の取組・改善策等	<p>○新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害について、不確かな情報に惑わされることなく、正しい理解と認識に基づき、人権を尊重した適切な行動がとれるよう引き続き指導や啓発に取り組めます。</p> <p>○小学校人権交流会の各地域における取組方法や内容について周知を行い、コロナ禍においても、人権課題の解決に向けて考え合うことができるよう、工夫ある小・小連携の充実を図ります。</p> <p>○同和問題への理解を深め、自らの考えや行動を振り返り、気づき合うことができるよう、実践豊富な講師の招聘や意見を出し合えるよう工夫したグループ協議に取り組めます。また、参加者アンケートなどから若手教員の現状や課題の把握に努め、更なる研修の充実を図ります。</p> <p>○中学校において、引き続きデートDVに関する調査を実施するとともに、令和3年度の振り返りや、各校の活用資料や授業内容などについて周知できるようにします。また、情報モラル教育とも関連させ、認識や理解がさらに深まるよう取組をすすめます。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

<p>人権に関する交流会や研修会が、児童生徒や教員に対して実施されていて、その成果の一端を児童生徒の意識調査の結果から垣間見ることができる。一方で、市の重点課題となっているデートDVについては、その実施率が低いため、その改善に向けて、市他部局との連携のもとにすすめられることを願う。</p>	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
---	--

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

(1) 家庭教育の充実

担当課	社会教育・文化財課
目標 (あるべき姿)	<p>○子どもたちが安心して活力のある生活を送り、豊かなところをはぐくむことができるよう、子育て支援担当部署と連携し、課題の共有化を図るとともに、基本的な生活・学習習慣の確立や家庭教育に関する情報などを発信し、家庭における教育力の向上を図ります。</p> <p>○学校、家庭、地域が互いに協力する取組を推進するため、学校、家庭、地域が担う役割について考え、それぞれが子育ての当事者となる意識の醸成を図ります。</p> <p>○OPTCA 活動を支援することにより、地域全体で子どもをはぐくむ意識の向上や、子育て環境の充実をめざします。</p> <p>○家庭での ICT 活用を支援するため、家庭でのルールづくり、情報モラル、長時間利用による健康への影響などについての対応策を学ぶ機会を設け、子どもたちの ICT 活用を支援する取組につなげます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 7. 29	ICT 通信発行「タブレットの活用アプリの紹介」
	R3. 9. 30	ICT 通信発行「タブレット端末を適切に利用するために」
	R3. 12. 18	丹波市 PTA 連合会「家庭での安心・安全な ICT 活用について考える研修会」
	R4. 1. 11	ICT 通信発行「インターネットを安全に利用するための方法」
	R4. 2. 2	子育て支援担当部署との情報共有
	R4. 3. 18	家庭教育コラム発信
	随時	コミュニティ・スクールの熟議の実施(和田小・中学校、中央小学校、青垣小・中学校、吉見小学校)

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
朝食を毎日食べる児童生徒の割合	93.4%	95.0%	95.1%	100%
子育てを地域みんなで協力し、支えていると思う市民の割合	46.7%	44.7%	38.2%	80.0%

取組の評価	<p>○児童生徒、保護者に向けた「ICT 通信」により新しいアプリの紹介や活用方法を周知し、タブレット端末の日常使いや、学習活動における効果的な活用をすすめることができました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度から単位 PTA による活動が縮小しているため、「丹波市 PTCA 活動実践交流大会」は中止し、従来、丹波市 PTA 連合会の役員を対象に実施していたリーダー研修会について、対象者を地域の保護者、学校運営協議会、地域学校協働活動推進員、社会教育委員などへ広げ、学校教育課から1人1台タブレット端末活用状況の報告を行うとともに、ネット対応アドバイザー嶋田亜紀氏を招き研修会を実施しました。グループ協議を通じ、家庭での ICT 活用状況、ルールづくりなどについて活発な情報交換が実施できました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○コロナ禍のなか、PTA 役員や自治会役員などで一堂に会することが困難となり、コミュニティ・スクールの熟議の場が減少し、地域とのつながりや支え合いの意識の希薄化が懸念されます。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○丹波市組織内のグループウェアを活用して子育て支援担当部署と情報を共有し、家庭における教育力を支援するための情報を丹波市教育委員会公式 LINE で発信していきます。</p> <p>○丹波市 PTA 連合会研修会でのアンケート調査を基に参加者のニーズに応じた研修会を計画し、今後の PTCA 活動の支援、家庭教育の意識向上に向けた取組につなげていきます。</p> <p>○学校運営協議会、社会教育委員の会議、地域学校協働活動推進員協議会において、コミュニティ・スクールの熟議を継続し、学校、家庭、地域のそれぞれが子育ての当事者となる意識の醸成を図ります。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

ICT 通信の発行や朝ごはんレシピの公開など、家庭教育の充実化に向けた施策が展開されている点、大いに評価できる。地域との交流が減少している状況について、コロナ禍の状況に鑑みれば仕方のないことである。丹波市は ICT に力を入れているので、オンラインでの交流など、柔軟で多様な方法の検討を願う。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び活躍できる生涯学習の推進

(2) 地域の将来を担う人づくり

担当課	市民活動課、文化・スポーツ課
目標 (あるべき姿)	<p>○「地域で子どもを育てる」という観点から、子どもの成長を支える活動に参加する大人を増やすため、情報提供や子ども向けのイベント、大人を対象とした講演会を開催します。また、子どもを対象とした市民提案の事業に対して、「活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」を交付し、支援します。</p> <p>○丹波市スポーツ協会や、中学校体育連盟、地域スポーツの関係者と連携し、子どものスポーツ環境の向上につながることを目的とした指導者研修会を開催し、健全なスポーツ環境の構築をめざします。</p> <p>○子どものスポーツの拠点となる学校体育施設の有効活用を図るため、少年少女スポーツ団体連絡協議会や、実際の施設利用者との意見交換を行う機会を作り、利用者からのニーズにマッチした施設利用の在り方を検討していきます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4月～ R4. 3月	「活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」交付 (対象2事業)
	R3. 8. 14、15	親子でつくろう！わが家の避難計画（市事業協力）
	R3. 11. 20	子どもプログラミング講座
	R3. 11. 27	まなぼうさい（県事業協力）
	R4. 2. 6	早寝早起き朝ごはんフォーラム（県事業協力）中止
	R3. 4月～ R4. 3月	少年少女スポーツ及び障がい者スポーツの指導者資格 取得助成
	R3. 5. 27	熱中症研修会（中止）
	R3. 5. 30	丹波市少年少女水泳記録会（日程延期後、中止）
	R3. 10. 1～4、9	普通救命講習会 市スポーツ協会、市少年少女スポーツ団体指導者などを対象に計画。コロナ禍により開催日を延期。講習会参加定員を縮小(10名)し、10/1～4、9日の計5回実施
	R3. 11. 28	宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」 市内の野球チーム・野球部に所属する小中学生を対象に、元プロ野球選手による野球教室を開催
	R3. 12. 19	丹波市ちーたん駅伝2021（中止）
	R3. 4月～ R4. 3月	子どものスポーツの拠点となる学校体育施設の有効活用を図るため、利用のニーズにマッチした施設利用の在り方と使用ルールの改善などについて検討

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
1年間に、子どもの教育・育成に関する活動へ参画した割合	12.7%	8.1%	10.7%	20.0%
少年少女スポーツ指導者が指導者資質向上を目指した研修会へ参加した割合	32.6%	中止 (未実施)	中止 (未実施)	50.0%

取組の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○「活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」については、地域の子どもたちや子どもの成長を支える大人を対象に、市民がつくる学習活動のため活用されました。 ○子ども会育成協議会主催事業については、役員不足のため自主運営が困難な状況であり、県及び市などが主催する事業への運営協力を行いました。
自己評価判定	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた研修会や講習会などを中止しました。しかし、普通救命講習会については、参加定員を縮小するなどの感染防止対策を行い実施しました。 ○学校体育施設やスポーツ施設では、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、安全安心にスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、スポーツ協会や市のホームページを通じて情報配信に努めました。
B	

今後の取組・改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ○「活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」については、実施計画の段階でしっかりと審査するとともに、補助期間である3年間のモニタリング行います。 ○子ども会育成協議会については、少子化の影響もあり、単子子ども会が組織できない地域も出てきています。隣接する子ども会による事業展開や自治協議会での取組を含め支援します。 ○今後のスポーツ活動においても新型コロナウイルスの感染予防対策に注意が必要であり、コロナ禍でのスポーツ活動を適切に指導できる指導者育成のための支援(指導者資格取得助成)や各スポーツ団体が、安全安心にスポーツ活動を行うための留意点などの周知を、市スポーツ協会と連携して行います。 ○少年少女スポーツ団体連絡協議会からの意見を聞き取り、改善しながら、安全安心にスポーツを楽しめる環境の向上をめざします。
------------	--

【外部評価者の評価】

補助金の交付をはじめとして、様々な研修会や講習会の実施が構想されている点、地域人材の育成という目的に照らして、高く評価できる。令和3年度はコロナ禍の影響により中止を余儀なくされたものも少なくないが、状況を考えれば仕方のないことである。今後も様々な方法を模索しながら、施策を立案してほしい。	評価判定
	B

☆評価判定☆
 A：適切、十分、75%以上
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上
 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び活躍できる生涯学習の推進

(3) 学びの成果を活かせる社会教育

担当課	市民活動課
目標 (あるべき姿)	○自分たちの地域課題は自分たちで解決する力を持ち発揮する「知識循環型生涯学習によるまちづくり」の実現に向けて、年齢に応じた様々な学習機会を提供するとともに、学んだ成果をいかせるように市民活動支援センターが中心となって、NPO などの多様な主体と連携・協働し、市民の学びを支援します。

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 10月～ R4. 2月	TAMBA シニアカレッジ（6講座）
	R3. 6月～ R4. 3月	TAMBA シニアカレッジラジオ教養講座
	R3. 11月～ R4. 2月	TAMBA 地域づくり大学
以下、市民活動支援センター業務		
	通年	市民活動団体情報誌「tamtam」発行（隔月）
	通年	市民プラザポータルサイト、専用 SNS 活用
	通年	センターラジオ放送（ラジオ喫茶「ここちか」）放送
	通年	補助金、広報、活動、団体、組織など各種相談業務
	通年	自治協議会へのアウトリーチによる地域支援
	通年	パブコメミーティング
	R3. 11. 13	市民プラザ大交流会
	R3. 12. 11	3市連携交流事業（丹波市、朝来市、福知山市）

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
1年以内に生涯学習を行った市民の割合	56.0%	58.0%	63.0%	70.0%
学びの活動で身についた知識や技能を生かしたいと思う市民の割合	34.2%	38.7%	34.8%	40.0%
市民活動を行いやすい環境が整備され、支援体制が整っていると思う市民の割合	34.9%	35.2%	41.1%	40.0%

取組の評価	<p>○シニアカレッジについては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、上半期を取り止め、10月から実施しました。</p> <p>○新しい生活様式に合わせた学習機会として、ラジオ教養講座を実施しました。</p> <p>○地域づくり大学は、高校生や大学生及び移住者を中心として、地域デビューをテーマに課題解決のプロセスである、「調べる力」と「参加する力」を学び、「行動できる力」に高める講座を実施しました。</p>
自己評価判定	○市民活動支援センターでは、新しい生活様式に合わせた情報発信として、センターラジオ放送（ラジオ喫茶「こちか」）をしました。また、地域づくりや市民参画に関する教養講座を令和2年度に整備したICT機器を活用し、オンラインと現場とのハイブリッドにより実施しました。
A	

今後の取組・改善策等	<p>○シニアカレッジについては、「学びから行動への変容」を促すため、「自分にできること」をテーマにして、少人数制による深掘り講座と、気軽に参加できるオープン講座に分けて実施します。</p> <p>○地域づくり大学については、令和4年度から市民プラザが指定管理により運営することとなり、委託業務に「地域づくり人材育成」が含まれており、重複するため取り止めます。</p> <p>○市民活動支援センターは、地域訪問を行うことによる地域ニーズの把握と、課題解決に向けた人材育成事業を展開します。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

シニアカレッジなどの開催、支援センターによるラジオ放送など、地域住民の生涯学習の機会が豊富に設定されている点、高く評価できる。生涯学習の基盤整備は、地域社会の質向上に資するものである。今後も、地域住民の自己実現と地域社会活性化の視点との均衡を図りながら、推進されることを期待する。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

(4) 文化芸術に親しむこころ豊かな市民生活の醸成

担当課	植野記念美術館、文化・スポーツ課
目標 (あるべき姿)	<p>○質が高く、館の個性をいかした展覧会の内容を充実し、多くの人々が美術館に親しみをもち、集える企画事業を開催します。</p> <p>○市内博物館施設及び図書館と相互連携を図り、展示内容やイベント情報を共有し、効果的にPRができるように取り組みます。</p> <p>○文化芸術の鑑賞・体験ができる機会の充実を図るため、ニーズや目的に合った特色ある文化ホールイベントや「丹波市ならでは」の取組としてアマチュアアーティスト育成支援事業を開催します。</p> <p>○丹波アートコンペティション開催を通じて、文化芸術活動への参加促進を図るとともに、関連した取組として美術講座を開催し、若手芸術家の発掘・育成をめざします。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 1～6. 27	アニメサザエさんとともに50年 -エイケン制作アニメーションの世界-
	R3. 7. 17～9. 5	宮西達也 New ワンダーランド展 -ヘンテコリンな絵本の仲間たち-
	R3. 9. 18～11. 14	広重展 -天才浮世絵師が描く日本名所紀行-
	R3. 11. 15～ R4. 1. 14	美術館内改修工事のため休館
	R4. 1. 15～3. 13	寅年・新春記念展 -丹波を訪れた四人の巨匠たち-
	R3. 8. 22～ R4. 1. 16	アマチュアアーティスト育成支援事業として、バンド・ピアノ・ダンス・和太鼓の4つのフェスタを開催。
	R3. 8月～ R4. 3月	ホール自主事業として、7つの事業を実施 ○大型鑑賞型公演（8月、3月） ○丹波市ゆかりのアーティスト公演（3月（2回）） ○音楽系・親子シリーズ公演（10月、12月、3月）
	R4. 2月～3月	○丹波アートコンペティション入賞・入選作品展（2月）、入賞作品特別展（3月）、審査員による美術体験講座（アートスパイス）（2月）

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
美術館への入館者数	18,369人	17,874人	16,470人	24,000人
文化ホール事業の来館者数	21,414人	7,785人	10,261人	28,000人
丹波アートコンペティションの作品 応募数（市民のみ）	143点	293点中 94点	272点中 90点	170点

取組の評価	<p>○各展覧会では、各種イベントや講演会などを通して、作家の作品に対する思いや意図、作品の素晴らしさを直接来館者に伝えることができました。</p> <p>○「with コロナ」時代への対応として、美術館の建物や展覧会の内容などを紹介したYouTube 動画を作成しました。</p> <p>○北海道博物館が主催している「おうちミュージアム」に参加し、植野記念美術館のホームページから、自宅で気軽に楽しめるアートのヒントを発信することができました。</p> <p>○アマチュアアーティスト育成支援事業の各フェスタは、コロナウイルス感染症対策を講じたうえで開催し、スタッフや参加者の舞台芸術への意欲向上や活動促進につなげました。</p> <p>○第3回目の開催となる丹波アートコンペティションは、第1回・第2回の実績を踏まえ、市民が参画しやすい作品展となるよう、同実行委員会で植野記念美術館と連携し、広報発信の充実に努めました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○「after コロナ」の時代を見据えて、美術館の紹介ムービーを更に充実させるため、国の補助金を利用して美術館紹介動画配信用の機材などを整備しました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○市内博物館施設及び図書館が相互に連携した事業を展開し、広く市内外にPR することにより、来館者数の増加や市内滞在時間の長期化に努めます。</p> <p>○「after コロナ」を前提としたホール事業のため、ネット配信などの環境整備を図り、参加者やスタッフの舞台芸術への参画意欲の向上に努めます。</p> <p>○アートコンペティションが市民の文化芸術活動や優れた芸術文化に触れる契機となるよう、広報の充実と作品展の魅力向上に努めます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>様々な企画展の構想、フェスタやホールの自主事業の実施など、文化芸術の振興に注力していることがうかがえる。一方で、コロナ禍の状況に鑑みれば、来館者数に依存する数値設定は限界があると思われる。この点を考慮して、オンラインを活用した展示の在り方など、今後の充実策の検討を願う。</p>	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center;">A</p>
--	--

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

(5)暮らしにとけこむ図書館づくり

担当課	中央図書館
目標 (あるべき姿)	<p>○市民の身近な「情報拠点」として、図書館サポーターや読み聞かせボランティア、関係機関・施設と協働しながら多様なサービスを提供し、市民が集い人の交流による地域づくりに貢献できる場所としての図書館をめざします。</p> <p>○子どもの読書活動を推進するため、家庭・地域・学校・図書館などが相互に連携しながら、子どもの主体的な読書活動を支え読書習慣の定着を図り、自ら学ぶ意欲を育てることをめざします。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4 月	小中学校新入生へ読書通帳配布
	R3. 4. 23	福袋企画による児童書の貸出
	R3. 4 月～6 月	植野記念美術館連携事業：「アニメサザエさんとともに50年」の展覧会に合わせた図書展示コーナーの設置
	R3. 5. 29 R3. 6. 19	図書館サポーター養成講座（2回開催）
	R3. 6 月～12 月	子ども司書養成講座（全7回）
	R3. 7 月～9 月	植野記念美術館連携事業：「宮西達也 New ワンダーランド展」の展覧会に合わせた図書展示コーナーの設置
	R3. 7. 10 R3. 10. 9	文化財課連携事業：県指定文化財旧朝倉家住宅を活用した昔話おはなし会（2回開催）
	R3. 10. 17	大人のためのおはなし会
	R3. 10. 23	図書消毒機導入（市内6館）
	R3. 10. 26～12. 5	市民から募集した「おすすめの本」紹介POPを各館で展示
	R3. 11. 13	市民プラザ連携事業：市民プラザ大交流会時における大きなおはなし会（読み聞かせボランティア・図書館・市民プラザ連携）
	R3. 11. 23	マイナンバーカードによる資料の貸出開始
	R3. 12. 12	ビブリオバトル丹波市大会（第7回）
	R4. 1. 15	子ども読書推進講座
	R4. 3. 3～	読書マイスター認定者の「みんなにすすめたい一冊の本」紹介POPを各館で展示
	随時	学校、園などへの情報提供と資料の貸出

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
図書館登録者のうち当該年度に図書館資料を借受けた登録者の数（有効登録者数）	8,205 人	6,215 人	6,578 人	8,700 人
図書館サポーターの活動実績人数	211人	195人	107人	300人
児童図書の貸出総冊数	177,867 冊	150,402 冊	183,500 冊	180,000 冊

取組の評価	○図書消毒機の導入など感染対策を徹底したサービスの提供により、コロナ禍前の利用状態に回復しつつあります。
	○図書館利用のきっかけとするために実施した市民プラザ、文化財課、植野記念美術館との連携事業では、おはなし会の開催や企画展示に取り組み、各施設の利用促進を図ることができました。
	○マイナンバーカードによる資料の貸出を開始し、利便性の向上を図りました。
自己評価判定	○「こどもの読書週間」を機に実施した本の福袋企画では、準備した福袋すべてが数日で貸出となり、利用者からは、「普段は読まない分野の書籍との新たな出会いがあった。」など高評価を得ました。
A	○「毎月23日は家庭読書の日」の啓発のために実施した「今月の推し本」企画では、毎月決まった利用者から予約が入るなど、選書のきっかけとなっています。

今後の取組・改善策等	○コロナ禍において図書館を新規に登録される市民が減少しているため、利用したことがない市民に図書館を気軽に利用していただくきっかけとなる取組や事業を継続・企画する必要があります。
	○令和4年10月より電子図書館サービスの開始に向け準備を行います。
	○子ども司書認定者の活動機会をさらに充実させ、図書館を身近に感じる子どもと保護者を増やすことにより、子どもの読書活動を一層推進する必要があります。

【外部評価者の評価】

市民にとって親しみのある図書館づくりのために、数々の取組を行っている点、またその成果の一端として、指標にみる結果も良好であると考え。コロナ禍によって、サポーターの実績が振るわない課題も残されているが、次年度以降も様々な取組を構想し、充実した図書館づくりに期待したい。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

(6) 歴史文化遺産の保存・活用と継承

担当課	社会教育・文化財課
目標 (あるべき姿)	<p>○歴史・文化遺産を次世代へ継承していくため、歴史資料の記録保存や掘り起しに努め、市民などに対し、地域の歴史や文化に触れる機会を設けることにより、地域に対する誇りや愛着が醸成され、歴史・文化遺産の保存・活用を通じたまちづくりへと発展していくことをめざします。</p> <p>○指定文化財の修復や民俗芸能などの活動に対し、補助事業による支援を行います。</p> <p>○歴史文化などを学習する施設として、企画展を開催するとともに積極的に校外学習を受け入れ、ふるさと意識の醸成に寄与します。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3.4月～R4.3月	青垣いきものふれあいの里企画展 計6回
	R3.4月～R4.3月	青垣いきものふれあいの里自然体験学習会 計10回
	R3.4月～R4.3月	氷上回廊水分れフィールドミュージアム企画展 計6回
	R3.4月～R4.3月	氷上回廊水分れフィールドミュージアムワークショップ 計22回
	R3.5月～12月	氷上回廊水分れフィールドミュージアム農業体験教室 計6回
	R3.7月～R4.2月	丹波の歴史講座 計6回
	R3.8.22	ユネスコ無形文化遺産登録記念実演・体験・企画展
	R3.9.14～26	円通寺「ふすま下張り文書」展
	R3.10.2～31	ミュージアム連携スタンプラリー
	R3.10.9～11.28	ユネスコ無形文化遺産登録記念企画展 「スゴ技・檜皮葺のすべて」
	R3.12.4	黒井城跡関連講座

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
1年以内に地域の伝統芸能や伝統行事へ参加した、また鑑賞したことのある市民の割合	51.9%	34.9%	31.2%	57.0%
指定文化財保存整備等の補助事業数	14事業	5事業	4事業	20事業
水分れ資料館〔氷上回廊水分れフィールドミュージアム〕の入館者数	2,035人	3,913人	33,025人	30,000人

取組の評価	<p>○地域に残る歴史資料の調査実施結果を報告する歴史講座や企画展の開催などにより、市民に対して身近な地域の歴史遺産に触れる機会を提供することができました。</p> <p>○氷上回廊水分れフィールドミュージアムでは、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館がありましたが、検温・消毒・換気の徹底などの感染症防止対策を講じて、多くの市内外の来館者に氷上回廊の魅力伝えるべく魅力的な企画展やワークショップを実施することができました。</p> <p>○博物館を通じたふるさと意識の醸成を図るため、氷上回廊水分れフィールドミュージアム及び青垣いきものふれあいの里と県立氷上西高等学校を博学連携として高校生による博物館コンテンツの制作を行うことができました。</p>
自己評価判定	
A	<p>○青垣いきものふれあいの里を含む市内のミュージアム（ちーたんの館・植野記念美術館・氷上回廊水分れフィールドミュージアム）の連携により、共通の季刊誌の発行を通じ、社会教育施設の利活用の機運を高めることができました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○文化財を保存・活用していくための具体的なアクションプランの策定に向けて、市内にある未指定を含めた文化財を掘り起こすとともに、老朽化がすすむ資料館などの整理統合に向けて、各資料館に所蔵する歴史資料の目録作成と整理作業をすすめます。</p> <p>○氷上回廊水分れフィールドミュージアムでは、年間3万人の集客をめざして、青垣いきものふれあいの里を含む市内のミュージアムなどとの連携強化を図るとともに、ICTを活用した博物館学習を検討します。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

<p>市内各施設において、多種多様な展示やワークショップが開催されており、それが市民の生涯学習につながっていることが推察される。コロナ禍における制約もあるが、今後は市内の各施設間の協働による企画など、今後も市民の生涯学習にとって益するよう、更なる魅力化に努めてもらいたい。</p>	<p>評価判定</p> <p>A</p>
--	----------------------

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明瞭

II 生涯を通じて学び、活躍できる生涯学習の推進

(7) 豊かな人権文化を創造する人権教育

担当課	人権啓発センター
目標 (あるべき姿)	<p>○市民の人権感覚・人権意識が高まるよう住民人権学習の実施方法や学習方法の助言をするなど市民の主体的な学習活動を支援します。</p> <p>○地域の人権課題の解決や人権意識の高揚を図るため、地域人権教育事業及び中学校人権学習交流集会を開催します。</p> <p>○各種団体や企業・事業所の自主的な人権学習に講師の紹介・派遣を行い、学習機会の拡大と人権が尊重され働きやすい職場づくりや人権尊重の企業活動を支援します。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 5. 18	令和3年度丹波市自治公民館活動事業について、各自治会へ書類送付による周知。併せて、地域における人権学習活動事業の実施について周知。
	R3. 6. 22 R3. 6. 24 R3. 6. 25	住民人権学習推進員研修会（参加者 216 人） 内容：人権学習 DVD「カンパニュラの夢」視聴 人権学習のすすめ方についての講義
	R3. 6. 29	住民人権学習支援者研修会（参加者 112 人） 内容：人権学習 DVD「カンパニュラの夢」視聴 ひきこもり 8050 問題についての講義
	R3. 8. 6	中学校人権学習交流集会（参加者 198 人）
	R3. 4 月～	企業・事業所人権学習講師派遣（随時） 制度の広報周知（広報たんば、商工会 FAX レター、事業所へのチラシ配布など）
	R3. 4 月～	住民人権学習相談対応（随時）
	R3. 5 月～	地域人権教育事業（7 中学校区）
	R4. 3 月	各自治会からの住民人権学習会実施報告提出
	R4. 3 月	地域人権教育事業実績報告提出

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
住民人権学習の実施率	92.0%	56.9%	54.8%	100%
地域人権教育事業に参加した生徒数	302 人	未実施	193 人	400 人
企業・事業所の人権学習への講師紹介・派遣件数	0 件	2 件	3 件	5 件

取組の評価	<p>○令和2年度は、新型コロナの影響により、住民人権学習会の中止や縮小をされ、実施率56.9%となりました。そこで、令和3年度の住民人権学習推進員研修会において、コロナ禍における人権学習活動の取組事例や様々な学習教材ツールの紹介など、「新しい生活様式」に対応し、前向きに地域で取組ができるように支援しましたが、54.8%の実施率となりました。今後も、住民人権学習推進員の活動への支援を行い、地域における学習の機会の充実を図ることが重要です。</p>
自己評価判定	<p>○市内各中学校区における地域人権教育事業や中学校人権学習交流集会について、令和2年度は新型コロナの影響により中止となりましたが、令和3年度はオンラインの活用など工夫を凝らし実施し、地域・学校における人権意識の高揚につながりました。</p>
B	<p>○人権学習に取り組まれる企業・事業所へ講師を派遣し（3件）、人権が尊重され、働きやすい職場環境づくりにつながりました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○住民人権学習は継続して実施することが重要ですが、新型コロナの影響のため、“集まってする”学習会の実施が困難な状況にあります。そこで、DVD 視聴だけでなく、他の学習手法や幅広い学習ツールについて情報提供するなど、引き続き各自治会などで学習会が実施されるよう支援します。</p> <p>○住民学習会への参加者は、世帯主又はその配偶者が多い状況であるため、子どもを含めた若年層や女性など多様な参加者が増えるような開催方法について推進員研修会などを通じて情報提供します。</p> <p>○地域人権教育事業及び中学校人権学習交流集会については、引き続き、「学びを止めない」という考えのもと、ウィズコロナの生活様式を取り入れた実施方法で取り組みます。</p> <p>○丹波市人権・同和教育協議会や丹波市商工会と連携し、企業・事業所などにおける主体的な人権学習の推進を図ります。</p> <p>○市職員として、正しい人権感覚を身につけ、人権の保障が行政の根幹であることを認識した上で、各種施策を公平・公正に遂行できるよう、各種人権問題について研修し資質の向上に努めます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>人権教育について、研修会や交流集会など様々な取組が企画され、実施されたことは大いに評価できる。一方で、実施率や参加者数には一定の課題が確認された。この一因としてコロナ禍の状況が大きく影響していると想定されるので、オンライン方式を導入するなど、様々な方法も検討してほしい。</p>	評価判定
	B

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

(1) 地域とともにある学校づくりの推進

担当課	学校教育課、社会教育・文化財課
目標 (あるべき姿)	<p>○地域住民などが当事者として学校運営に参画することで学校と地域の連携・協働体制が組織的・継続的に確立され、地域とともにある学校づくりや課題解決に向けた取組を推進します。また、各小中学校で交流しコミュニティ・スクールの深化・充実を図ります。</p> <p>○中学校へ導入された学校運営協議会制度が、地域の実情に合わせた取組となるように、校内研修などの充実を支援するとともに、全小中学校において「地域とともにある学校づくり」を推進します。</p> <p>○地域学校協働活動推進員の配置により、学校・家庭・地域の連携・協働を図り、地域の教育力をいかした教育活動を推進します。</p> <p>○社会教育、地域づくりを担っているまちづくり部との連携を強化し、幅広い地域住民との協働体制を構築するとともに、地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐコーディネーター役として活動できるようにするため、地域で活動できる土台づくりを支援します。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 1	地域学校協働活動推進員委嘱 春日部小学校 推進員総計 5名
	R3. 4月	学校運営協議会新規導入（市島中学校）
	R3. 4. 24	第1回「地域から考える学びの未来会議」
	R3. 10. 1	地域学校協働活動推進員委嘱 崇広小学校 推進員総計 6名
	R3. 12. 22	第1回地域学校協働活動推進員協議会
	R4. 3. 9	第2回地域学校協働活動推進員協議会
	R4. 3～	地域学校協働活動推進員実践発表 動画限定配信〔教員系グループ・ワークスペース〕（西小学校、春日部小学校）
	随時	学校運営協議会（各校）
	中止	コミュニティ・スクール連絡会
	中止	「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
コミュニティ・スクールを導入している中学校の割合	14.3%	57.1%	85.7%	100%
地域の人々が学校と連携・協働して子どもの成長を支えていると思う市民の割合	—	57.8%	59.7%	80.0%

取組の評価	<p>○令和3年4月と10月に、新たに2名の地域学校協働活動推進員を委嘱することができました。</p> <p>○「できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！」をモットーに、学校・家庭・地域・行政それぞれが子どもの成長にかかわる当事者となり、協働する体制を構築するため、令和3年4月に第1回の「地域から考える学びの未来会議」を実施しました。第2回は緊急事態宣言の発令などにより開催を延期しましたが、コアメンバーで協議を継続し第2回目を開催できるよう調整しました。</p> <p>○「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムの開催は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止しましたが、「地域から考える学びの未来会議」の講演動画を配信し、各校研修会及び学校運営協議会などでの積極的な活用を図りました。</p> <p>○学校運営協議会の導入予定の中学校では、新型コロナウイルス感染症の影響で導入前の研修会の実施や熟議を重ねることが難しい状況にありましたが、年度内に予定していたすべての中学校へ導入することができました。また、丹波教育事務所主催の統括地域コーディネーター研修には、各小中学校から運営協議会委員を中心に1名以上の参加を求め、参加者一人ひとりの資質向上を図ることができました。</p>
自己評価判定	
B	<p>○コミュニティ・スクール連絡会は中止となりましたが、発表予定の2校の地域学校協働活動推進員の活動に関する実践発表を動画配信することで、地域学校協働活動推進員の積極的な配置の促進を図りました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○統合を控える学校区を中心に、熟議や研修会の開催などを支援することにより、全小中学校においてコミュニティ・スクールの深化・充実を図るとともに「地域とともにある学校づくり」を推進します。</p> <p>○各校の学校運営協議会を訪問し、実態把握や学校のニーズの聞き取りに努め、好事例をコミュニティ・スクール連絡会などで周知します。</p> <p>○地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐコーディネーター役として活動できるようにするため、地域学校協働活動推進員間の情報共有や意見交換を行う連絡会を実施します。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

<p>学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」「社会に開かれた教育課程」推進の要となる。この導入とあわせて、連絡会やフォーラムの実施などを企図しており、評価できる。一方でコロナ禍の状況により、中止せざるを得なくなった取組もあるため、次年度以降の進展に期待したい。</p>	<p>評価判定</p> <p>B</p>
---	----------------------

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

(2) 教職員の資質・能力及び学校の組織力の向上

担当課	学校教育課
目 標 (あるべき姿)	<p>○教職員のライフステージに応じた研修体系に基づき、一人ひとりの資質・能力の向上を図ります。</p> <p>○子ども、保護者、地域から信頼される学校づくりをめざし、多様な人材が教育活動に携わり、学校組織全体としての総合力が発揮できる協働体制を確立します。</p> <p>○効果的な教育活動を持続的に行える環境を整えるため、教職員の業務負担の軽減に取り組むとともに、働き方改革を推進し、教職員のワーク・ライフ・バランスの実現を図ります。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3.4月	部活動指導員設置
	R3.4月	スクール・サポート・スタッフの配置（業務改善用、学校施設消毒用）
	R3.4月	コミュニティ・スクールによる地域ボランティアスタッフの学校運営への参画
	R3.4月、7月	「たんば啐啄塾」第1回(R3.4月) 第2回(R3.7月)
	R3.6月	第1～3回スクールリーダー育成研修
	R3.7月	職場巡視（2、3学期はコロナ蔓延のため未実施）
	R3.7月	産業医面談（2、3学期はコロナ蔓延のため未実施）
	R3.8月、10月	管理職研修 第1回(R3.8月) 第2回(R3.10月)
	R3.8月～	教職員用パソコンに退勤を促すポップアップメッセージを表示させ、早期退勤を促す。
	R3.9月、R4.3月	部活動検討委員会 第1回(R3.9月) 第2回(R4.3月)
R4.3月	市各部局から学校への配付物電子化を市政策会議で提案・了承され、令和4年度より開始決定	

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	84.5%	85.1%	87.0%	100%
管理職研修の内容が、組織力向上に活かせると回答した割合	—	100%	94.6%	100%
月に45時間以上超過勤務を行う教職員の割合	34.3%	23.1% (4、5月臨時休業)	21.7%	0%

取組の評価	<p>○「たんば啐啄塾」については、「子どもたちの心のケア」「授業づくりのポイント」など、若手教員の声を受け、ニーズに合ったテーマを設定することができました。参加者は1回目 35 名、2回目 33 名で、積極的な参加となりました。</p> <p>○7月に実施した管理職研修では、熊本大学准教授 苫野一徳氏を講師に招きました。これからの教育のすすめ方や、困っている児童生徒へのよりよい教育の在り方を考える貴重な機会を得ることができました。</p> <p>○すべての学校で業務改善に取り組みましたが、全学校の教職員の超過勤務の平均時間が月 30.33 時間と増加しました。(令和2年度 月 29.48 時間)</p>
自己評価判定	
A	<p>○部活動検討委員会を開催し、今後、生徒数が更に減少する中で持続可能な部活動の在り方について、保護者、教職員、地域、中体連、それぞれの立場からの課題を出し合いました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○指導主事訪問や校長面談において、学校長と学校運営ビジョンを共有し、よりよい取組となるよう指導助言を行います。</p> <p>○“とらわれない・おそれない・あきらめない”働き方をめざし、学校の組織構成の多様化による持続可能な仕組みづくりを推進します。</p> <p>○今後、保護者、地域へ部活動運営の在り方についての周知文を作成し、啓発を図ります。また、部活動による教員の負担軽減を行うため、部活動指導員の配置希望調査を行い、教職員の負担軽減を図ります。</p> <p>○スクール・サポート・スタッフ（業務改善用、学校施設消毒用）については、令和4年度の継続配置に向けて取り組みます。</p> <p>○令和4年度から市の各部局からの児童・生徒の保護者宛配布物を電子化することで業務改善を行い、配布にかかる時間の削減に取り組みます。</p> <p>○令和4年度から学校閉庁期間3日間を7日間に延長し、さらなる教職員の健康増進と休暇取得促進を図ります。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>教職員の資質・能力の向上や働き方改革を推進するための支援策が多数講じられている点、高く評価したい。こうした取組をぜひ継続しながら、更なる推進を求めたい。ただし、依然として月45時間以上の超過勤務の実態が20%を超えているので、超過勤務の是正には急ぎ取り組んでほしい。</p>	<p>評価判定</p> <p style="text-align: center;">A</p>
--	--

☆評価判定☆

A：適切、十分、75%以上

C：やや不適切、やや不十分、50%未満

B：概ね適切、概ね十分、50%以上

D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

(3) 学校給食の充実

担当課	教育総務課
目標 (あるべき姿)	<p>○学校給食を将来にわたり安定的に提供できるよう、丹波市学校給食運営基本計画に基づき、各学校給食センターの厨房機器などを計画的に更新します。</p> <p>○学校給食事業の円滑な運営及び保護者負担の公平性を図るため、学校給食費の徴収強化に努めます。</p> <p>○児童生徒の食への関心や、郷土愛をはぐくむため、地産地消を推進し、地元の特産物を取り入れながら、郷土食や行事食を盛り込んだ献立作成に取り組みます。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 13 R3. 4. 20	学校給食費滞納者への法的措置（訴訟提起による口頭弁論）
	年3回	学校給食費督促に応じない滞納者に対し催告書及び最終催告を通知（5/19、11/17、1/26）
	R3. 7月～9月	柏原・氷上学校給食センター厨房機器更新（3年間計画の第1期目）
	R3. 7月～9月	春日学校給食センター空調改修工事
	R4. 3. 16	学校給食用農産物生産者連絡協議会に出席
	R4. 3. 24	最終催告に応じない学校給食費滞納者を法的措置対象者として決定し、法的措置決定通知書を通知
	毎月	学校給食センターにおいて地元生産者と地場野菜調整会議を実施
	年3回	広報「教育たんば」に「学校給食費納付について」掲載（8月、12月、3月）
	年3回	学校給食費滞納分の納付指導を実施し児童手当から給食費滞納分を徴収（6月、10月、2月）
	随時	学校給食費滞納者への電話催促及び納付指導

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
衛生上の支障を懸念して給食を停止した回数	0回	0回	0回	0回
給食費（現年分）の徴収率	98.4%	98.7%	99.1%	99.5%
地場野菜（主要15品目）の使用割合	27.3%	27.7%	23.5%	30.0%

取組の評価	<p>○柏原・氷上学校給食センターの厨房機器などについて、調理業務などに支障をきたすことなく1期目の更新が完了しました。</p> <p>○春日学校給食センターの空調機器について、改修工事が完了しました。この改修工事により、これまで空調設置のなかったコンテナプールに空調を設置し、調理員などの職場環境の改善を図ることができました。</p> <p>○学校給食事業の円滑な運営と保護者負担の公平性を図るため、支払督促などの法的措置を講じ、給食費滞納繰越分の徴収強化に努めました。</p>
自己評価判定	
A	<p>○各学校給食センターにおける感染症対策を強化し、新型コロナウイルス感染症などにより給食を停止することなく、学校に給食を提供しました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○学校給食の運営に関する基本的事項を定める学校給食運営基本計画について、令和5年度から令和9年度まで5年間の計画を定める第3次丹波市学校給食運営基本計画を、令和4年度中に策定します。</p> <p>○令和3年度から3年間かけて実施する柏原・氷上学校給食センターの2期目の厨房機器更新について、調理業務などに支障が出ないよう、計画的にすすめます。</p> <p>○学校給食用の食器を、現在使用中の重くて割れやすい強化磁器製食器から、素材の安全性が高く、軽くて割れにくいPEN樹脂製食器に切替えます。</p> <p>○学校給食費現年分の滞納について、新たな滞納者が定着することの無いよう、電話などによる督促を継続して実施します。</p> <p>○学校給食費滞納繰越分について、法的措置を講じながら徴収強化に努めます。</p> <p>○地場野菜の利用推進について、丹波市学校給食用農産物生産者協議会と協議・調整しながら地元農産物の使用割合の向上を図ります。</p>
------------	--

【外部評価者の評価】

学校給食において地産地消の推進は、食育の推進にとって有益である。地場産の調達の高さも聞いているが、今後とも継続して充実化に向けた取組を期待する。あわせて、給食費の徴収をかねてより口座振替にしており、これが徴収率の高さとあわせて学校教員の負担軽減につながっていると考える。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

(4) 安全・安心な学習環境の整備・充実

担当課	教育総務課、学校教育課
目標 (あるべき姿)	<p>○安全で安心な学校施設整備の推進</p> <p>○通学路などの安全対策</p> <p>○平成 25～26 年度に導入したメールサーバや、ファイルサーバなどの教育用センターサーバを更新します。</p> <p>○新規採用教職員及び全教職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施し、情報セキュリティに対する職員の意識向上を図ります。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R2.9月～R3.7月	久下小学校北校舎大規模改造及びEV棟新設工事設計業務
	R3.5月～10月	氷上中学校特別教室等空調設備整備工事
	R3.5月～10月	青垣中学校特別教室等空調設備整備工事
	R3.6月～10月	市島中学校特別教室空調設備整備工事
	R3.6月～10月	柏原中学校特別教室空調設備整備工事
	R3.6月～10月	春日中学校特別教室空調設備整備工事
	R3.9月	通学路合同点検に基づく調整会議
	R3.4月	新規採用教職員向け情報セキュリティ研修
	R3.5月～R4.1月	教育用センターサーバ機器購入
	R3.6月～R4.2月	教育用センターサーバ更新業務
	R3.6月～R4.2月	校務支援システムサーバ移行業務
	R3.7月～10月	全教職員向け情報セキュリティ研修

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
長寿命化によるトータルコストの削減	3校	2校	0校	2校
通学路における事故件数（小中学校）	17件	11件	9件	0件
常勤教職員1人1台体制の維持	100%	100%	100%	100%
コンピュータウイルス、サイバー攻撃、不正アクセス等による情報セキュリティ事故の発生件数	0件	0件	0件	0件

取組の評価	<p>○第5次学校施設整備計画に基づき、統合予定の中学校を除くすべての中学校において、特別教室の空調設備整備工事を完了しました。また、学校施設等長寿命化計画に基づく中長期的な維持費に係るトータルコストの縮減及び維持管理・更新のメンテナンスサイクルの構築と、衛生的で環境に配慮したトイレの洋式化及び手洗い場の自動水栓化も含めた第6次学校施設整備計画を策定しました。</p> <p>○緊急性の高い施設から修繕を完了しましたが、老朽化の現状に応じて、トイレを含めたバリアフリー化など量的な対応が必要です。</p> <p>○6月の千葉県での交通死亡事故を受け、丹波警察署と指定通学路位置を共有し巡視体制の強化などをすすめていく中、8月に丹波市内で登校中の中学生が大型車両に巻き込まれ亡くなるという、痛ましい事故が発生しました。再び悲しい事故が起きないように、引き続き通学路合同点検による危険箇所の確認を行うとともに、早期改善と交通事故の再発防止に向け取り組む必要があります。</p> <p>○丹波市教育委員会 ICT 機器更新計画（令和2年度～4年度）に基づく教育用センターサーバ更新について、物理的なサーバの数を減らしてコストを削減するとともに、サーバの役割を見直すことで障害に強い環境を構築することができました。</p>
自己評価判定	○校務支援システムの更新については、物理的なサーバを廃止し、業者間の調整を行い、センターサーバの仮想マシンとして構築することでコストを削減することができました。
B	○教職員向けの情報セキュリティ研修については、未実施者のある学校に受講を勧奨することで100%実施を達成しました。

今後の取組・改善策等	<p>○第6次学校施設整備計画に基づき、山南地域統合中学校整備工事、久下小学校北校舎大規模改造及びエレベーター新設工事、トイレの洋式化に取り組みます。</p> <p>○通学路の危険箇所について、通学路の変更や防護柵の設置など、関係機関において安全対策に取り組みます。</p> <p>○学校の ICT 環境について、セキュリティ、コスト、ネットワークの負荷を見極めつつ、クラウドサービスへの移行を検討します。</p> <p>○情報セキュリティポリシーについて、クラウド活用を前提とした内容に改めます。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>学習環境の整備は、児童生徒の学びの基盤となるものである。今後も児童生徒の学習が充実したものとなるように取り組んでほしい。あわせて学校外での安全も重要となる。とくに通学路の事故件数は減少傾向にあるものの、重大な事故も発生している。このような事故が起きないように改善を期してほしい。</p>	<p>評価判定</p> <p>B</p>
--	----------------------

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
 B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

<(5) 学校の適正規模・適正配置>

担当課	教育総務課
目標 (あるべき姿)	<p>○山南地域市立中学校の校舎等建築工事を行います。また、山南地域市立中学校統合準備委員会の各部会において、統合に向けた具体的な協議を行います。</p> <p>○市島地域市立小学校統合検討委員会において、市島地域の小学校を統合するという方向性が確認されたことを受け、市島地域市立小学校統合準備委員会において、統合の手法、統合に向けてのスケジュールなどについて、具体的な検討に入ります。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 5. 21～9. 21	丹波市立山南中央公園施設等解体工事
	R3. 6月～11月	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 計3回
	R3. 6月～7月	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 通学・設備部会 計4回
	R3. 6月～7月	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 通学・設備部会 和田地区小委員会 計3回 上久下地区小委員会 計1回
	R3. 6月～11月	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 総務部会 計2回
	R3. 6. 18	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 PTA 部会
	R3. 6月～R4. 3月	丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会 計5回
	R3. 7月～8月	市島地域別ヒアリング（5小学校）
	R3. 7月～ R4. 3月	丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会 教育課程部会 計3回
	R3. 8. 12	臨時教育委員会
	R3. 8. 27	山南地域市立中学校開校に伴う和田地区遠距離通学に係る保護者説明会（草部自治会）
	R3. 9. 18～ R5. 1. 31	山南地域統合中学校建設工事 （建築・機械設備・電気設備）
	R3. 10. 12	山南地域市立中学校開校に伴う和田地区遠距離通学に係る保護者説明会

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
市島地域小学校統合のあり方	提言	統合を前提に協議することを決定	統合形態や時期の検討	検討組織による方針確定
丹波市立学校適正規模・適正配置方針の見直し	—	方針の見直し	—	見直し後の方針に沿った取組

取組の評価	<p>○山南地域市立中学校の令和5年4月開校に向け、建設場所である旧山南中央公園の体育館及びプールなどの解体工事や校舎等建築工事を予定通り発注することができました。</p> <p>○丹波市山南地域市立中学校統合準備委員会では校歌歌詞及び作曲の最終選考が新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言により、実施が遅くなったものの予定どおり決定することができました。</p> <p>通学・設備部会では、遠距離通学支援について協議し、8月12日の教育委員会で支援策を決定しました。通学支援に係る駐輪場やバス停についても予定通り整備や設置ができる見込みとなりました。</p>
自己評価判定	<p>PTA部会を設置し、PTA組織の設立に向けて、現行の山南中学校・和田中学校PTAで協議すべき事項を整理し、両校PTAで具体的な調整を行い、規約の整備や役員を選出方法などが協議されました。</p>
A	<p>○丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会を設置し、吉見小学校と鴨庄小学校の令和5年4月統合を決定されました。</p>

今後の取組・改善策等	<p>○開校に支障が出ないように令和5年1月完成をめざし、山南地域市立中学校の校舎等建築工事をすすめます。</p> <p>○山南地域市立中学校の校章については、令和4年度の統合準備委員会で最終決定します。また、開校に支障が生じないように備品購入や引越業務をすすめます。和田地区生徒が対象となる路線バスを活用した遠距離通学支援については、意向調査の実施や定期購入などの手続きの支援を行います。新校舎の竣工式や山南中学校・和田中学校の閉校式の実施、山南地域市立中学校の開校式の準備を行います。</p> <p>○吉見小学校と鴨庄小学校の令和5年4月統合という決定を受け、三輪小学校についても、引き続き統合に向け協議します。また、竹田小学校と前山小学校の統合についても、引き続き「統合の時期」や「統合の場所」を協議します。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

山南地域市立中学校の開校に向けて、予定通りに進捗している。今後も予定通りに開校できるように万全の準備ですすめてほしい。市島地域の統合に向けて、これまでと同様に保護者や地域住民との意見交換の場を設定し、協議を重ねながら統合の在り方を模索されることを願う。	評価判定
	A

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 学びを支える環境の整備

(6) 教育委員会活動の活性化

担当課	教育総務課
目標 (あるべき姿)	<p>○教育委員会（定例・臨時）の内容をホームページに掲載します。 また、広報紙「教育たんば」、ホームページ、丹波市教育委員会 LINE を使い分け、教育委員会や学校の様子など、効果的な情報発信に努めます。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関することなど緊急性の高い情報は、丹波市教育委員会 LINE を活用し迅速な情報発信に努めます。</p> <p>○教育委員や外部評価による点検・評価をいかすため、中間報告を実施し、令和4年度の予算や施策に反映します。</p> <p>○意識改革、デジタル化について行政・教育アドバイザーに助言を仰ぐため、学校訪問や意見交換会を実施します。</p> <p>○「地域から考える学びの未来会議」を開催し、新たな協働体制を構築します。</p>

【主な取組】

令和3年度 の実績	実施時期等	内容
	R3. 4. 24	丹波市の教育応援プロジェクト「地域から考える学びの未来会議」の立ち上げ
	R3. 6. 24	総合教育会議 「教育大綱について」、「教職員の働き方改革について」
	R3. 8. 23	8月定例教育委員会にて協議 「ICTの取組状況 効果と課題について」
	R3. 9. 30	9月定例教育委員会にて現地視察 崇廣館部材、旧朝倉家住宅、青垣歴史民俗資料館
	R3. 10. 25	10月定例教育委員会にて協議 教育委員会自己点検・評価の中間報告
	R4. 1. 6	学校管理職との意見交換
	R4. 2. 24	総合教育会議 「令和4年度丹波市の教育（実施計画）重点施策」、「丹波少年自然の家のあり方について」
	年3回	広報「教育たんば」発行（8月・12月・3月）
	随時	教育委員協議会、臨時教育委員会にて協議 「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」
	随時	教育委員会ホームページ「新型コロナウイルス感染症関連情報」更新、丹波市教育委員会 LINE の発信

【指 標】

取組内容	H30 計画策定時	R2 実績値	R3 実績値	R6 目標値
教育委員会からの情報発信（市のホームページや広報等）は内容が充実していると思う市民の割合	33.7%	—	39.5%	50.0%
自己点検・評価による改善施策数	未測定	—	4 施策	10 施策
教育委員の活動件数	289 件	178 件	186 件	300 件

取組の評価	<p>○丹波市の教育応援プロジェクトとして、丹波市の教育をみんなで考える新たな学びの場を提供するため「地域から考える学びの未来会議」を立ち上げました。第1回目の会議には、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育委員などが参加し、新たな協働体制を構築するための第一歩となりました。</p> <p>○丹波市教育委員会 LINE により、新型コロナウイルス感染症関連情報を計14回発信し、迅速に情報提供することができました。</p> <p>○8月の定例教育委員会では、1人1台端末の活用状況などについて協議し、GIGAスクール構想による現状と課題を協議しました。また、9月の定例教育委員会では、崇廣館部材の保管状態、旧朝倉家住宅、青垣歴史民俗資料館を視察し、現場の実態を確認しました。</p>
自己評価判定	<p>○令和4年度の施策に反映させるため、予算要求時期に併せて、自己点検・評価の中間報告を作成しPDCAサイクルの確立に努めました。</p> <p>○市島地域校園長会にて学校管理職との意見交換会を実施し、現場の意見を教育施策に反映できるよう課題共有に取り組みました。</p>
A	

今後の取組・改善策等	<p>○丹波市教育委員会公式LINEでの画像やテキスト情報について、視覚的にも簡潔で分かりやすい情報発信をめざします。</p> <p>○関係機関との意見交換を実施し、より一層密な連携強化を図ります。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に係る対応方針や講演会情報など、教育委員が情報共有できるよう事務局から積極的に情報提供するとともに、協議事案については委員協議会により随時協議します。</p>
------------	---

【外部評価者の評価】

<p>広報誌の発行、Web ページやLINEでの情報発信など、情報公開に積極的な点は高く評価できる。ただし、受け手側が充実していないと意識しているので、市民のニーズに即した内容の発信や、内容そのものの質の向上などを検討してほしい。あわせて教育委員の活動も情報発信する必要性があると考えます。</p>	<p>評価判定</p> <p>A</p>
---	----------------------

☆評価判定☆ A：適切、十分、75%以上 C：やや不適切、やや不十分、50%未満
B：概ね適切、概ね十分、50%以上 D：不適切、不十分、達成度不明瞭

Ⅲ 参考資料

1 教育委員会名簿

役職	委員名	任期(※1)	主な職	保護者(※2)
教育長	片山 則昭	令和3年6月1日 ～令和6年5月31日 (1期目)	元公立高等学校長	
教育長職務 代理者	深田 俊郎	平成31年2月4日 ～令和5年2月3日 (2期目)	元公立高等学校長	
委員	横山 真弓	令和3年2月4日 ～令和7年2月3日 (2期目)	公立大学教授	
委員	安田 真理	令和2年2月4日 ～令和6年2月3日 (1期目)	グラフィックデザイナー	○
委員	上羽 裕樹	令和4年2月4日 ～令和8年2月3日 (1期目)	会社役員	

※1 教育長の任期は3年間。教育委員の任期は4年間。

※2 保護者とは、未成年者に対し親権を行う者のことをいい、平成20年4月1日から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第4条第5項の規定により、委員のうち保護者である者が含まれることが義務付けられた。

2 教育委員会の開催状況（令和3年度実績）

次のとおり定例教育委員会及び臨時教育委員会を開催し、報告事項42件、協議事項16件、議事47件について審議を行った。

- ・定例教育委員会 12回（移動教育委員会1回〔9月〕）
- ・臨時教育委員会 4回
- ・教育委員協議会 8回



令和4年度教育委員会自己点検・評価報告書
発行：丹波市教育委員会
住所：丹波市山南町谷川 1110 番地